

農業のもつ広域的・多面的効果

宇都宮大学名誉教授 近内 誠 登

今日ほど農業が危機存亡にさらされたことが過去に例があっただろうか。その国の人命を支える基幹産業が存亡の淵にあることは、独立国家の名を捨てた食糧隷属国家としかいいようがない。

これは自由貿易、自由経済という市場原理が競争拡大に拍車をかけ、生産物の内外価格差だけを判断基準として、農業の存否を決定づけているためである。そこでは効率優先の大陸型農業のみの繁栄によって、食糧保障の面で各国や地域に不安を残し、その国が築いてきた農業のもつ多面的効用をも捨てようとしている。

農業は食糧の生産だけでなく、環境保全や文化的・社会的な生活リズムを形成し、一国の繁栄に大きく関わってきたが、「安いもの」を求める指向が、非効率の名において農業とそれによって生み出される多面的機能をも葬り去ろうとしている。自分さえ、そして今さえ良ければよいとする考えは、単に時代の流れや社会の変化といった短絡的なことでは済まされない問題で、ことは次世代に負の財産をツケ回すことになる。

農業は、土地と太陽から食糧を生産する、いわば無から有を生み出す崇高な営みであるが、実は生産以外に大変な副的効果のあることが忘れられている。

日本はモンスーン地域にあり、植物の生育にとっては良い条件にあるが、立地的には農業条

件不利国である。それは傾斜角35度以上が13%、30~35度が21%にみられるように、山間起伏が多く、雨水の急流による立地の崩壊・洪水の常発といった自然災害がつきまとっている。農業はこれらの問題と対峙しながら、治山治水をはかり、農地を造成し、これを守り農業を継承してきた。水田こそその完成した姿である。

日本農業は、この40年間に、609万ヘクタール(1961)から483万ヘクタール(1998)へと減少し、その利用率も138%(1956)から94%(1998)へと大幅に低下し、耕作放棄や道路、建造物用地への転用が進み、農地の減少傾向は止まらない。

食料の自給率もカロリーベースで40%、穀物では27%と先進国のなかでは最低の自給率水準で、まれにみる食糧輸入大国となっている。農業生産において世界の中で最適条件にある国である。



農地は治山、治水に役立っている。

食料の外国依存による弊害

国際自由貿易を通じて、いままで見たこともなかった花や食物が入手できることは大いに結構なことであるが、価値の判断基準が、安さという経済効率のみ強調され、非効率の名のもとに崩壊の道を進む日本農業の姿は、国民一人一人に、本当にこれでよいのかと再考を促したい。

食料や飼料の輸入でもっとも憂慮すべきことは、それらに含まれるチッ素やリンの国内への異常集積である。毎年何万トンにもおよぶこれらの物質は、たとえ浄化装置で処理したとしても、確実に残っていく訳で、河川の富栄養化や硝酸性チッ素となって地下水汚染の元凶となることは必定である。いわゆる世界のゴミ捨て場になろうとしているのである。

循環型農業が叫ばれているが、これはその国の国内における物質循環を上手に働かさせる手法で、外部から持ちこむことは、循環の歯車を狂わせることになる。

また、食料の外国依存は、自国の農業を破壊し、農民が守ってきた環境保全の役割をも崩壊させている。一方、食糧輸出国においても、農地のいたずらな拡大、品質の規制、肥料の多投入による生産環境、農業スタイルの変化をもたらし、買う国への悪感情としてうっ積し、そのツケは国内外からの批評となって、わが国の後世代に向けられることになる。

世界の食を考えると、飽食と飢餓の二つの地域に分けられる。人工の増加とともにその差はますます鮮明になっている。

飽食であることは消費者にとって結構なことであるが、生産の苦勞が伝わらず、粗末にすることにも無神経で、食品の可食部廃棄が27%の数字にも現れている。

安い食品の贅沢な供給は、食生活に始まるラ

イフスタイルの乱れに連動し、最近とくに増加している凶悪犯罪、無法行為もそのルーツは食生活にみられるライフスタイルの喪失・崩壊に求めることができる。

自然条件を相手に営まれる農業は、いつも高い生産を維持できる保障は全くない。ましてそれを外国に依存し続けられるとする保障もある筈がない。こと食糧に関する限り、貿易の主導権は輸出国が完全に握っているからである。

農業の多面的効果

自由経済が発達すると、すべての製品が末端価格のみで価値が判断され、生産現場の事情は無視されることになる。その結果は効率化を優先するあまり、工業製品にみられるように生産工場からの有毒物の放出、粗悪品の流通を生む結果となる。

農産物も全く同じ尺度でみられ、日本の農産物は高すぎるとして、輸入品が謳歌されている。農産物は労働賃金が高のまま価格に繁栄される商品で、所得の高い国で生産された製品が高くなるのは当然のことであり、ましてわが国の10分の1の労働賃金で生産される農産物との競争は明らかに勝負がついているといえよう。

しかし、ここでよく考えて頂きたい。

農業は数千年の歴史を経て、食物の生産と農地を守るために自然との調和の上に成立した一大遺産なのである。つまり、農業こそ環境保全、自然保護の先端防波堤としての役割を担ってきた崇高な営みである。天変地異の自然界で行われる農業を効率のだけで判断し、存亡に無関心であってよい筈がない。

さて、食料生産以外に農業のもつ多面的機能を具体的に示すと次の通りである。

① 雨水の調節機能

- ・洪水防止
- ・土砂崩壊防止
- ・土壌侵食（土砂流出）防止
- ・河川流況の安定
- ・地下水涵養

以上は水田によってもたらされる効果であるが、たとえば水田の有効貯水量は50億 m^3 （年）とされ、巨大ダム効果を形成にしており、洪水防止効果は金額に換算できないほどぼう大なものである。また、わが国のような傾斜地では川の流れが早く、地下水として貯えられる量は極めて少ないことになるが、水田という巨大ダムのお陰で、年間37億 m^3 の地下水が貯えられるとされている。

これらは工業用水や飲料水として利用されている。また、土の浸食、土砂崩壊防止効果も大きく、国費によらない治山治水機能を果してきた。

② 環境の負荷軽減効果

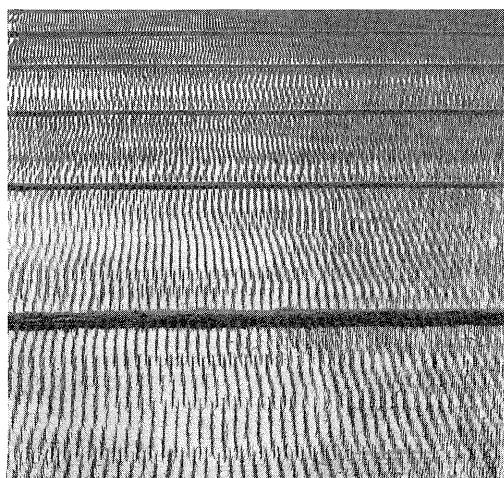
- ・水質浄化
- ・有機的分解
- ・大気緩和

水田は濾過作用により、流入した水を浄化して地下水とする働きがある。また、農耕地は生ゴミや有機物を分解し、有効な成分として作物に供給する微生物を培養している。これが農業と消費者を結びつける、環境保全型社会の原点である。その恩恵を互いに享受する関係にある。

さらにまた、田面水の蒸発や作物葉面からの蒸散により気温の変化を緩和する働きはきわめて大きい。

③ 生物多様性の保全

- ・生物生態系保全



水田はダムの役割を果している。

- ・作物遺伝子源保全
- ・野生動物保全

農地は自然を開拓し、人為的環境を造り出したものであるが、年数の経過とともに二次的な自然環境を形成してきた。その環境を“すみか”とする動植物が定着し、農耕地独自の生態系が作られてきた。これは人間の生活に最も近い自然生態系として馴染み、これら作物と共棲関係をもつ動物も存在するようになった。また、作物栽培を続ける中から、突然変異等の優良遺伝子も発見されてきた。

④ 土地空間の保全

- ・人工の自然景観形成
- ・みどり空間の提供
- ・優良農地の動態保全

欧米人が、日本を世界に紹介した書籍に、日本を代表する景観として、富士山、京舞子、水田風景とある。人力をもって整然と植えられた水田の景観に驚いたためであろう。たしかに植え終った水田の広がりを見ると、日本人のふろさと映る人は少なくない筈である。

水田の緑の平原をみると、作物生産のためと

いうより、自然を美しく保護しているとうける印象が強く感じられる。そのような使命感とプライドが農業哲学であり、その環境こそ日本住民のルーツでもある。

⑤ 伝統文化の保存

- ・農村文化の保存
- ・伝統芸能の継承

機械力を通じて製品を作る工業にたいし、生命体を通じて製品を作る農業は、人間の保護なしには成り立たない産業である。しかも予測不可能な自然現象を相手の業(なりわい)は、否が応にも“苛酷”の連続で、お互いに助け合うこと、分かち合うといった独得の文化を生んできた。そして喜怒哀楽を形として表わす農民芸能も、人間の和を守る原点として栄えてきた。

つまり、農村で生まれた文化や芸能の教えは、人間同志のいさかいをなくす和を基本原則として、かもし出されたものである。

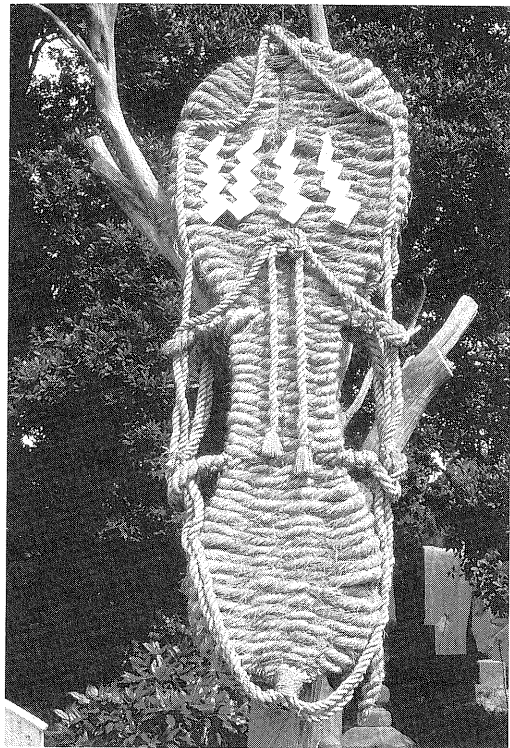
⑥ 人間性の回復機能

- ・自然体験学習
- ・保健休養
- ・機能回復リハビリテーション
- ・都会的緊張の緩和

長い歴史をかけて重労働の農業が続けられてきた底流には、人類のルーツが自然の中の一生物であるとする自然への帰依、あるいは自然と向いあうことによる安住、安心の本能がその支えになっていることは否めない。機械文明が発達すればするほど、人間性を回復するための自然、つまり農業への関心を強く抱くようになる。

受け身として働かされる都市社会では心身の喪失が落ちゆく先であるが、その修復をはかる場こそ農村環境に見い出すことができる。

以上の通り、農業は食糧生産以外に数々の恩恵をはぐくんできた。それは自然との共生をベースとして築かれた産業であり、その崩壊は民族の存亡にかかっている。自由貿易を国策とする現状も理解できるが、農業を単なる食糧生産の一手段として把えるのではなく、農業を介しての民族、生活、環境という視点にたった国土保全策を、国家百年の計のもとに、民衆意識の高揚と国政レベルで早急に対応されることを強く望むものである。



伝統文化が保存されている。